

⑦被災庁舎と防災センターの合築庁舎新築整備事業

受賞機関 熊本県 土木部 建築住宅局 営繕課

キーワード 熊本地震、被災庁舎の復旧、
防災センターの機能向上

全建賞審査委員会の評価ポイント

熊本地震で被災した庁舎と防災センターの合築庁舎の新築整備。基礎免震構造やヘリポートの整備等により、災害時においても庁舎の機能を維持できるよう配慮されている点や、ユニバーサルデザインレビューによりベビーチェアの位置等を変更し、利用者の目線を重要視した整備を実施した点が評価された。

1. はじめに

平成28年熊本地震において「熊本土木事務所庁舎（大破）」及び「熊本総合庁舎（中破）」が大きな被害を受けた。被災した「防災センター」は、既存庁舎の高層階（10階）にあることや活動スペースが十分確保できなかったことが課題であったことから、それらを解消するため合築庁舎を整備した。

【施設概要】

構 造：鉄筋コンクリート造（免震構造）
階 数：地下1階、地上7階
延べ面積：9,970㎡



熊本県防災センター（全景）

2. 事業の概要

県庁敷地内に3つの施設を集約することで、建物の有効活用、事業費の縮減等に取り組んだ。

施設の整備に当たっては、

- ・大規模災害時に防災拠点として十分な機能を確保
- ・人と環境にやさしく、快適に利用しやすい
- ・合築するメリットを充分発揮

することを目標とした。

当センターは、基礎免震構造、PCa構造を採用し、屋上にはヘリポートを整備した。

電力や給排水等のライフラインについては、平常時は県庁全体で運営し、災害時には当センター単独で最低

72時間災害対策を継続できるよう非常用発電設備、鋼板製一体型受水槽、緊急排水貯留槽等を備えた。また、設備のエネルギー源の多重化も図った。

また、快適で利用しやすい施設を目指し、設計段階から車いす利用者や障がい者等の方々と意見交換を行いながら、設計を行った。

さらに、工事段階でも、工事施工者の協力を得て、多目的トイレ及び授乳室の実物大模型（モックアップ）を制作して、来庁者等にアンケート調査を行うなど実際の使い勝手などを検証して、更なる改善を行った。実物大模型（モックアップ）での検証は、当課HPにも掲載している。

<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/116/187686.html>



人と環境にやさしい庁舎

ユニバーサルデザインへの配慮

シンプルでわかりやすい空間構成にするとともに、各階ごとに色を割り当てた「フロアカラー」を取り入れ、案内板には視認性を高めるセブラ模様を導入しました。
また、地上各階には思いやりトイレとオストメイト対応トイレを設置したり、避難時における車いす待機スペースを確保するなど、ユニバーサルデザインに配慮した庁舎となっています。



環境と共生する庁舎

卓越風を使用した自然換気、自然採光の積極的な活用等、熊本の自然の恵みを有効活用した庁舎となっています。
また、LED照明のほか、無電源自動ドアや地中熱による空調設備を導入する等、省エネルギー化に配慮しています。



木材の活用

快適な空間づくりと地球温暖化防止につながるよう、庁舎内の壁や床、天井には木材を活用しています。また、1階の展示・学習室の壁面などには、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会選手村ビレッジプラザに使用された県産材を大会のレガシーとして再利用しています。
壁や天井の一部には、くまモンが隠れていますので、ご来庁の際は是非探してみてください。



人と環境にやさしい庁舎への主な取組

3. 事業の成果

低層階に災害対策本部やオペレーションルームの災害対策の主要な指令機能を配置するとともに、政府現地対策本部や自衛隊等の応援機関の活動室も設けた。

また、1階は過去県内で発生した大規模災害の経験や教訓を学び、地域防災の担い手育成や児童の防災学習の拠点となっており、現在県内外から多くの方々が訪れている。

4. おわりに

熊本地震からの創造的復旧・復興として、震災後約7年をかけて施設を整備したが、次なる大規模災害への備えを実現し、さらに九州を支える広域防災拠点としての機能も強化することができた。

賛助会員 (株)大林組